

# マルチ・ストラテジーズ・ファンド – トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

ケイマン諸島籍オープン・エンド型契約型外国投信(トルコリラ建て)

## 運用報告書(全体版)

作成対象期間: 第3期(2015年3月20日～2016年3月19日)

管理会社

インターナショナル・マネジメント・サービシズ・リミテッド

代行協会員

東海東京証券株式会社

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、マルチ・ストラテジーズ・ファンドー トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド(以下「サブ・ファンド」といいます。)は、このたび、第3期の決算を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ファンドの仕組みは、以下のとおりです。

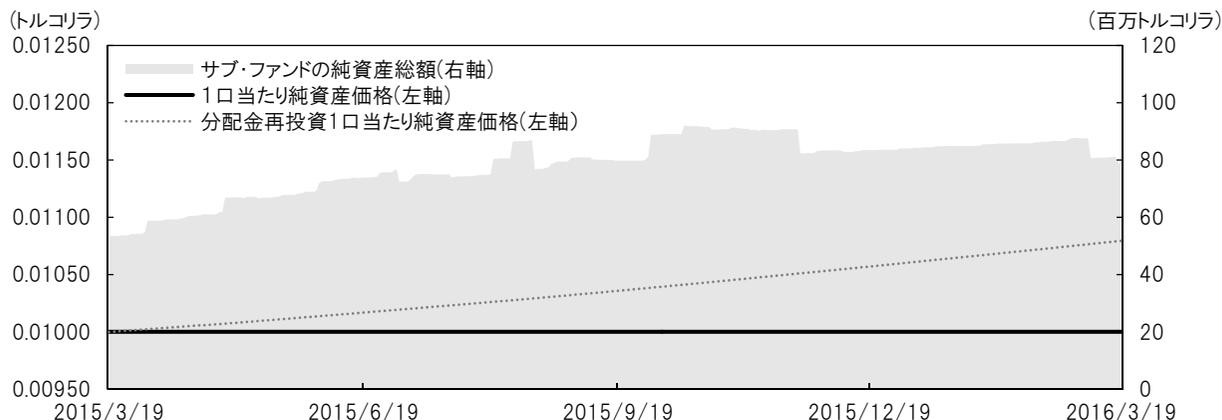
ファンドの形態	ケイマン諸島籍オープン・エンド型契約型外国投信（トルコリラ建て）
信託期間	原則として、基本信託証書の締結日(2013年6月10日)から150年間存続しますが、一定の事由が発生した場合、または投資運用会社および副投資運用会社と協議の上、受託会社と管理会社がサブ・ファンドを償還することに合意した場合に償還されます。
運用方針	サブ・ファンドの投資目的は、国債、社債、譲渡性預金証書、資産担保証券、銀行預金ならびにレポ取引およびリバース・レポ取引を含む(ただし、これらに限られません。)トルコリラ建ての短期金融商品に対する投資によって、収益を提供しつつ、投資元本を維持し、高い流動性を保つことです。
主要投資対象	サブ・ファンドの投資ユニバースには、主として、トルコ国債、社債、リバース・レポ取引および銀行預金が含まれます。
サブ・ファンドの運用方法	トルコリラ建ての短期金融商品に対する投資によって、収益を提供しつつ、投資元本を維持し、高い流動性を保ちます。
主な投資制限	<p>投資制限 以下の投資制限がサブ・ファンドに適用されます。 管理会社、投資運用会社、または副投資運用会社のいずれも、サブ・ファンドに関し以下の行為を行ってはならないものとします。</p> <p>(a) 会社として設立された集团的投資スキームを含むあらゆる種類の持分証券を取得すること。ただし、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号。その後の改正を含みます。)(以下「投信法」といいます。)第2条第4項に定義される「証券投資信託」または投信法の第2条第22項に定義される証券投資信託に類する「外国投資信託」として設定される集团的投資スキームに投資する場合には、かかる制限は適用されません(当該集团的投資スキーム自体は持分証券には投資しないことを条件とします。)</p> <p>(b) サブ・ファンドの純資産の15%を超えて、容易に現金化することのできない私募持分証券、非上場持分証券または不動産等の非流動性資産に投資すること。ただし、日本証券業協会の外国証券の取引に関する規則の第16条、外国投資信託受益証券の選別基準(随時変更または代替されます。)によって定められる価格の透明性を確保するための適切な措置がとられた場合を除きます。上記割合の計算は、管理会社の裁量により、当該資産の購入時に計算される金額または現在の時価のいずれかによることができます。</p> <p>(c) サブ・ファンドの計算において空売りされた有価証券の時価総額が純資産総額を超えることになる有価証券の空売りを行うこと。</p> <p>(d) サブ・ファンドの資産の時価総額の50%超が(i)金融商品取引法第2条第1項に定義される「有価証券」(金融商品取引法第2条第2項に定義される当該項に基づき有価証券とみなされる権利を除きます。)の定義に該当しない資産、または(ii)金融商品取引法第28条第8項6号に定義される「有価証券関連デリバティブ取引」の定義に該当しない資産によって構成されることになる投資対象を取得または追加取得すること。</p>

<p>主な投資制限</p>	<p>(e) 管理会社またはその他の第三者の利益のため、受益者の保護に反するまたはサブ・ファンドの資産の適切な運用を害する取引を行うこと。</p> <p>(f) サブ・ファンドの計算において保有される一発行体の発行済社債の総額が、純資産総額の10パーセントを超えることとなる、当該発行体の発行済社債を取得すること。</p> <p>(g) 満期が365日以上の有価証券を取得すること。</p> <p>(h) 自己またはその取締役を当事者とする取引を行うこと。</p> <p>(i) 管理会社またはサブ・ファンド以外の者に利益を与えることを意図する取引を行うこと。</p> <p>(j) 後記の「借入制限」の項に記載される借入方針に従う場合を除き、サブ・ファンドの計算において借入れを行うこと。</p> <p><u>借入制限</u>  投資運用会社、副投資運用会社および／またはそれらの委託先は、借入総額が純資産総額の10%を超えることにならないことを条件として、サブ・ファンドの計算において金銭の借入れを行うことができます。ただし、合併等の特別な緊急事態の場合は、かかる10%の制限を一時的に超過することができます。</p>
<p>分配方針</p>	<p>サブ・ファンドは、受益証券1口当たり純資産価格が基準金額を超えた各取引日において、名目上、分配を行う方針です。</p> <p>当該取引日に分配される受益証券1口当たりの金額は、受益証券1口当たり純資産価格を基準金額まで減額するために必要となる金額とします。</p> <p>受益証券1口当たりの分配金は、小数第10位を四捨五入して計算されるものとします。分配金は、該当する分配日に、当該分配日において受益証券が自己の名義で受益者名簿に登録されている者について計上されるものとします。</p> <p>分配が宣言され、当該受益者に計上される分配金の支払いを実際に受けるのではなく、該当する分配金再投資日に追加の受益証券の買付資金とされることに留意すべきです。受益証券に関し、宣言され、計上されたものの各分配金再投資日までに支払われなかった分配金は全て、該当する分配金再投資日に受益証券1口当たり純資産価格で、受益証券に自動的に（源泉徴収およびその他受益者の居住国で支払いが求められる税金を差し引いた後、）再投資されるものとします。受益証券の端数は発行されないものとします。受益証券の端数に関する権利が生じることとなる金額については、整数口数まで四捨五入されるものとします。</p> <p>分配金再投資日以前に受益証券の買戻しを請求した受益者は、宣言され、計上されたものの受益証券が買戻される買戻日までに支払われなかった一切の分配金を、当該買戻請求に関する買戻代金とともに支払われるものとします。</p> <p>関連する分配金が純資産総額から差し引かれる日である分配金落ち日は、該当する分配日とします。疑義を避けるために記すと、分配日である取引日において、有効な受益証券取得申込書を提出した受益者は、当該分配日における分配金を受け取る権利を有するものとします。分配日である買戻日において、有効な買戻請求書を提出した受益者は、当該分配日において分配を受け取る権利を有しないものとします。</p> <p>受託会社は、受益者が基本信託証書の条項に基づき支払義務を負うものの未払いの金額について、分配金の全額またはその一部から控除し、相殺することができるものとします。</p>

## I. 運用の経過等

### (1) 当期の運用の経過および今後の運用方針

#### ■ 1口当たり純資産価格等の推移について



第2期末の1口当たり純資産価格	0.01トルコリラ
第3期末の1口当たり純資産価格	0.01トルコリラ (分配金額：0.000770311トルコリラ)
騰 落 率	7.96%

#### ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

サブ・ファンドの商品特性上、1口当たりの純資産価格は0.01トルコリラで、変動はありません。

(注1) 騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

(注2) 1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。

(注3) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にサブ・ファンドへ再投資したとみなして算出したもので、サブ・ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注4) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第2期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注5) サブ・ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注6) サブ・ファンドにベンチマークは設定されておりません。

## ■ 分配金について

当期（2015年3月20日～2016年3月19日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。

（金額：トルコリラ）

分配金再投資日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 <sup>(注)</sup> )
2015年 3月 27日	0.01	0.000047650 (0.48%)
2015年 4月 28日	0.01	0.000056715 (0.57%)
2015年 5月 28日	0.01	0.000056677 (0.57%)
2015年 6月 26日	0.01	0.000055936 (0.56%)
2015年 7月 30日	0.01	0.000066342 (0.66%)
2015年 8月 27日	0.01	0.000056418 (0.56%)
2015年 9月 29日	0.01	0.000070029 (0.70%)
2015年 10月 27日	0.01	0.000061475 (0.61%)
2015年 11月 27日	0.01	0.000069694 (0.70%)
2015年 12月 24日	0.01	0.000060902 (0.61%)
2016年 1月 28日	0.01	0.000080513 (0.81%)
2016年 2月 26日	0.01	0.000066798 (0.67%)

(注) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、サブ・ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率 (%) =  $100 \times a / b$

a = 当該分配金再投資日における1口当たり分配金額

b = 当該分配金再投資日における1口当たり純資産価格 + 当該分配金再投資日における1口当たり分配金額

以下同じです。

## ■投資環境について

トルコ債券市場は、期初より、6月に予定されている総選挙と、その後の経済政策の運営に対する懸念等からトルコリラが対ドルで史上最安値を更新したこと等を嫌気し、軟調な展開となりました。6月7日に投開票となった総選挙では、与党・公正発展党（AKP）が2002年の政権獲得以来初の過半数割れを喫しました。直後の市場はネガティブに反応しましたが、連立政権が比較的早期に樹立されるとの期待が高まると、債券市場は上昇に転じました。しかしその後、トルコ軍がシリア北部にある「イスラム国」の拠点に空爆を行ったこと等から、国内の政治情勢悪化や地政学リスクの高まりに対する懸念が台頭し、トルコ債券市場は大きく売られました。その後も再選挙実施の公算が大きくなるなど政局の混迷が続くとの懸念から、トルコ債券市場は続落しました。10月に入ると、米国の利上げ観測の後退やドラギECB総裁が追加金融緩和の可能性を強く示唆したこと等が好感され上昇に転じました。しかし、11月、トルコ軍がロシア軍機を撃墜したことを機にロシアとの緊張が高まり、トルコ債券市場は再び下落する展開となりました。年明け後、地政学リスクの高まりや中国株式市場の大幅下落等を受け世界的にリスクオフの展開が進行したことなどを背景に続落しました。しかし、2月以降ドラギECB総裁が追加金融緩和の可能性を示唆したことを受け、世界の株式市場が大きく反発し、投資家心理が好転する中、トルコ債券市場も上昇に転じ、その後も米FRBによる利上げペースが想定よりも緩やかになるとの見方が広がったことを受け、米国で長期金利が低下したこと等を背景に、トルコ債券市場も期末にかけて続伸しました。

## ■ポートフォリオについて

サブ・ファンドは、期中、トルコリラ建ての国債、社債、レポ取引等を行い、高い流動性を保ちつつ、投資元本の維持およびインカム・ゲインの獲得を目指し運用してまいりました。2016年3月19日時点の7日間平均利回りは、前期末の5.988%から上昇し、8.468%となりました。

## ■投資の対象とする有価証券の主な銘柄

当期末現在における有価証券の主な銘柄については、後記「Ⅲ. ファンドの経理状況（3）投資有価証券明細表等」をご参照ください。

## ■今後の運用方針

引き続き、トルコリラ建ての短期金融商品に投資することにより、高い流動性を保ちつつ、投資元本の維持、収益確保を目指します。

## (2) 費用の明細

項 目	項目の概要	
受託報酬	純資産総額の年率 0.04% (年間最低：43,000 トルコリラ)	サブ・ファンドの受託業務
管理報酬	純資産総額の年率 0.025% (年間最低：40,000 トルコリラ)	サブ・ファンドの資産の管理ならびに 受益証券の発行および買戻業務
投資運用報酬 (副投資運用報酬を含みます。)	純資産総額の年率上限 0.85%	管理会社に対する投資運用業務 投資運用会社に対する副投資運用業務
管理事務代行報酬	純資産総額の年率 0.08% (月間最低：8,900 トルコリラ)	サブ・ファンドの管理事務代行業務
保管報酬	純資産総額の年率 0.12% (月間最低：2,100 トルコリラ)	サブ・ファンドの資産の保管業務
代行協会員報酬	純資産総額の年率 0.10%	受益証券に関する目論見書を日本証券業協会に提出し、受益証券 1 口当たりの純資産価格の公表を行い、また決算報告書その他の書類を日本証券業協会に提出する等の代行協会員業務
販売報酬	申込みを取得した受益証券に係る純資産総額の年率 0.35%	口座内でのサブ・ファンドの管理および事務手続き、運用報告書等各種書類の送付、購入後の情報提供等の業務
その他の費用（当期）	0.31%	税金、銀行および証券業者の手数料、保険料、弁護士費用、監査費用など

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をサブ・ファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

## Ⅱ. 直近10期の運用実績

### (1) 純資産の推移

下記会計年度末および第3会計年度中の各月末の純資産の推移は以下のとおりです。

	純資産総額		1口当たり純資産価格	
	トルコリラ	千円	トルコリラ	円
第1会計年度末 (2014年3月19日)	47,895,501.00	1,706,038	0.01	0.3562
第2会計年度末 (2015年3月19日)	53,054,040.00	1,889,785	0.01	0.3562
第3会計年度末 (2016年3月19日)	78,400,496.00	2,792,626	0.01	0.3562
2015年3月末日	54,239,869.13	1,932,024	0.01	0.3562
4月末日	66,921,588.06	2,383,747	0.01	0.3562
5月末日	68,921,425.46	2,454,981	0.01	0.3562
6月末日	76,173,668.64	2,713,306	0.01	0.3562
7月末日	74,814,082.53	2,664,878	0.01	0.3562
8月末日	79,420,064.60	2,828,943	0.01	0.3562
9月末日	81,118,973.05	2,889,458	0.01	0.3562
10月末日	91,263,612.56	3,250,810	0.01	0.3562
11月末日	83,130,155.38	2,961,096	0.01	0.3562
12月末日	84,036,472.13	2,993,379	0.01	0.3562
2016年1月末日	85,493,802.03	3,045,289	0.01	0.3562
2月末日	87,223,546.42	3,106,903	0.01	0.3562

(注) トルコリラの円貨換算は、特に記載がない限り、便宜上、平成28年6月30日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1トルコリラ=35.62円)によります。以下、トルコリラの円金額表示はすべてこれによります。

## (2) 分配の推移

下記会計年度における1口当たりの分配の額は、以下のとおりです。

会計年度	1口当たり分配金	
	トルコリラ	円
第1会計年度 (2013年9月24日～2014年3月19日)	0.000294416	0.010487098
第2会計年度 (2014年3月20日～2015年3月19日)	0.000636892	0.022686093
第3会計年度 (2015年3月20日～2016年3月19日)	0.000770311	0.027438478

## (3) 販売及び買戻しの実績

下記会計年度における販売および買戻しの実績ならびに下記会計年度末日現在の発行済口数は以下のとおりです。

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度 (2013年9月24日～2014年3月19日)	5,322,890,213 (3,271,402,725)	481,141,558 (481,141,558)	4,841,748,655 (2,790,261,167)
第2会計年度 (2014年3月20日～2015年3月19日)	4,011,610,366 (3,878,082,428)	3,504,448,277 (3,004,448,277)	5,348,910,744 (3,663,895,318)
第3会計年度 (2015年3月20日～2016年3月19日)	9,413,703,964 (9,019,260,444)	6,892,288,269 (5,102,829,323)	7,870,326,439 (7,580,326,439)

(注1) ( ) 内の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。

(注2) 第1会計年度の販売口数は、当初申込期間に販売された販売口数を含みます。

### Ⅲ. ファンドの経理状況

#### 財務諸表

- a. ファンドの直近2会計年度の日本語の財務書類は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文（英文）の財務書類を翻訳したものです（ただし、円換算部分を除きます。）。これは、「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第131条第5項ただし書の規定の適用によるものです。
- b. ファンドの原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいいます。）であるケーピーエムジー ケイマン諸島から監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含みます。）が当該財務書類に添付されています。
- c. ファンドの原文の財務書類は、トルコリラで表示されています。日本語の財務書類には、主要な金額について円貨換算が併記されています。日本円による金額は、平成28年6月30日現在における株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1トルコリラ＝35.62円）で換算されています。日本円に換算された金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合があります。

# 受託会社宛ての独立監査人の監査報告書

2016年3月19日に終了する計算期間

我々は、添付の2016年3月19日現在の貸借対照表、有価証券明細表、および同日に終了する計算期間の損益計算書、純資産変動計算書、キャッシュフロー計算書、並びに重要な会計方針の要約および説明情報から成る注記で構成される、マルチ-ストラテジーズ・ファンド（以下「当トラスト」という。）のシリーズ・トラストであるトルコリラ・マネー・マーケット・ファンド（以下「当シリーズ・トラスト」という。）の財務諸表について監査を行った。

当監査報告書は、契約条件に従って、受託会社に対してのみ作成されたものである。我々の監査業務は、監査報告書において受託会社に対して意見を述べる必要がある事項について受託会社に意見を述べるように実施されており、その他の目的はない。我々の監査業務、当監査報告書、または我々が形成した監査意見に関して、当トラスト及び受託会社以外の誰に対しても、我々は責任を引き受けるものではなく、または負うものではない。

## 財務諸表に対する受託会社の責任

受託会社は、米国で一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示する責任、および不正によるか誤謬によるかを問わず、重要な虚偽表示のない財務諸表の作成を可能とするために経営陣が必要と判断する内部統制に関する責任を負う。

## 監査人の責任

我々の責任は、我々が行った監査の結果に基づいて財務諸表に対する意見を表明することである。我々は、国際監査基準に準拠して監査を実施した。これらの監査の基準は、我々が倫理義務を遵守し、財務諸表に重要な虚偽表示がないか否かについて合理的な保証を得るための監査を計画し実施することを要求している。

監査には財務諸表の金額及び表示に関する監査証拠を入手するための手続の実施が含まれる。当該手続は、不正によるか誤謬によるかを問わず、財務諸表の重要な虚偽表示に関するリスク評価を含む我々の判断によって選択される。かかるリスク評価において我々は、状況に応じた監査手続を立案するため、当シリーズ・トラストの財務諸表の作成および適正な表示に関する内部統制について検討するが、これは当シリーズ・トラストの内部統制の有効性について意見を表明するために行うものではない。監査には受託会社が採用した会計方針の妥当性、および受託会社が行った見積りの合理性についての評価も含め、財務諸表の全体的な表示に関する評価も含まれている。

我々は、監査意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 意見

我々は、財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して、2016年3月19日現在の当シリーズ・トラストの財政状態、並びに同日に終了する計算期間の財務成績、及びキャッシュフローの状況を全ての重要な点において適正に表示していると認める。

KPMG

2016年9月7日



KPMG  
P.O. Box 493  
Century Yard, Cricket Square  
Grand Cayman KY1-1106  
Cayman Islands  
Telephone +1 345 949 4800  
Fax +1 345 949 7164  
Internet www.kpmg.ky

**Independent Auditors' Report to the Trustee**  
For the year ended March 19, 2016

We have audited the accompanying financial statements of Turkish Lira Money Market Fund (the "Series Trust"), a series trust of Multi Strategies Fund (the "Trust"), which comprise the statement of assets and liabilities, and the schedule of investments as at March 19, 2016, the statements of operations, changes in net assets and cash flows for the year then ended, and notes, comprising a summary of significant accounting policies and other explanatory information.

This report is made solely to the Trustee, in accordance with the terms of our engagement. Our audit work has been undertaken so that we might state to the Trustee those matters we are required to state to them in an auditors' report and for no other purpose. We do not accept or assume responsibility to anyone other than the Trust and the Trustee, for our audit work, for this report, or for the opinions we have formed.

***Trustee's Responsibility for the Financial Statements***

The Trustee is responsible for the preparation and fair presentation of these financial statements in accordance with U.S. generally accepted accounting principles, and for such internal control as management determines is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

***Auditors' Responsibility***

Our responsibility is to express an opinion on these financial statements based on our audit. We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing. Those standards require that we comply with ethical requirements and plan and perform the audit to obtain reasonable assurance about whether the financial statements are free from material misstatement.

An audit involves performing procedures to obtain audit evidence about the amounts and disclosures in the financial statements. The procedures selected depend on our judgment, including the assessment of the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error. In making those risk assessments, we consider internal control relevant to the Series Trust's preparation and fair presentation of the financial statements in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Series Trust's internal control. An audit also includes evaluating the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates made by the Trustee, as well as evaluating the overall presentation of the financial statements.

We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our audit opinion.

***Opinion***

In our opinion, the financial statements present fairly, in all material respects, the financial position of the Series Trust as at March 19, 2016, and its financial performance and its cash flows for the year then ended in accordance with U.S. generally accepted accounting principles.

KPMG

September 7, 2016

## (1) 貸借対照表

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
貸借対照表  
2016年3月19日

	注記	2016年	
		トルコリラ	日本円
<b>資産</b>			
公正価値により測定される負債証券への投資 (取得原価：58,510,121トルコリラ)	3	59,108,396	2,105,441,066
現金及び現金同等物	6	19,533,720	695,791,106
ファンドの販売受益証券に対する未収金		109,818	3,911,717
未収利息		445,718	15,876,475
<b>資産合計</b>		<b>79,197,652</b>	<b>2,821,020,364</b>
<b>負債</b>			
ファンドの買戻受益証券に対する未払金		196,558	7,001,396
未払分配金		386,285	13,759,472
その他の未払金	8	214,313	7,633,829
<b>負債合計</b>		<b>797,156</b>	<b>28,394,697</b>
<b>純資産</b>	11	<b>78,400,496</b>	<b>2,792,625,668</b>
1口当たり純資産価額（「NAV」） (期末における口数残高7,870,326,439口に基づく)	5、11	0.01	0.36

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

受託会社の代理として署名：

\_\_\_\_\_  
(署名)

\_\_\_\_\_  
(署名)

日付：2016年9月7日

## (2) 損益計算書

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
損益計算書  
2016年3月19日に終了する計算期間

		2016年	
	注記	トルコリラ	日本円
<b>投資収益</b>			
受取利息		3,318,185	118,193,750
取得時のディスカウント分のアキュムレーション		4,679,299	166,676,630
		<hr/>	<hr/>
		7,997,484	284,870,380
<b>費用</b>			
投資運用報酬	7、8	237,075	8,444,612
副投資運用報酬	7、8	434,638	15,481,806
管理報酬	7、8	40,304	1,435,628
管理事務代行報酬	8	219,874	7,831,912
保管報酬	8	218,442	7,780,904
受託報酬	7、8	43,327	1,543,308
販売報酬及び代行協会員報酬	8	308,055	10,972,919
監査報酬	8	67,475	2,403,460
その他の費用		177,647	6,327,786
		<hr/>	<hr/>
		1,746,837	62,222,334
<b>純投資収益</b>		<b>6,250,647</b>	<b>222,648,046</b>
投資及び外国為替に係る実現純損失		(1,722)	(61,338)
		<hr/>	<hr/>
<b>運用による純資産の純増額</b>		<b>6,248,925</b>	<b>222,586,709</b>

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
**純資産変動計算書**  
 2016年3月19日に終了する計算期間

	2016年	
	トルコリラ	日本円
<b>期首純資産</b>	<b>53,054,040</b>	<b>1,889,784,905</b>
運用による純資産の純増額	6,248,925	222,586,709
受益者への分配金	(6,116,626)	(217,874,218)
受益証券の発行	94,137,040	3,353,161,365
受益証券の買戻	(68,922,883)	(2,455,033,092)
<b>期末純資産</b>	<b>78,400,496</b>	<b>2,792,625,668</b>

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
 キャッシュ・フロー計算書  
 2016年3月19日に終了する計算期間

	2016年 トルコリラ	日本円
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
運用による純資産の純増額	6,248,925	222,586,709
運用による純資産の純増額から営業活動による現金及び 現金同等物の変動（純額）への調整		
負債証券の購入	(272,055,922)	(9,690,631,942)
レポ取引による負債証券の購入	(104,300,000)	(3,715,166,000)
負債証券の売却	248,187,264	8,840,430,344
レポ取引による負債証券の売却	114,100,000	4,064,242,000
証券購入の未払金の減少	(4,705,680)	(167,616,322)
投資及び為替に係る実現純損失	1,722	61,338
未収利息の増加額	(362,307)	(12,905,375)
その他の未払金の増加額	89,612	3,191,979
	(12,796,386)	(455,807,269)
<b>営業活動による現金及び現金同等物の変動（純額）</b>		
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
受益証券発行による収入	89,572,363	3,190,567,570
受益証券買戻による支出	(68,788,442)	(2,450,244,304)
分配金	(1,141,221)	(40,650,292)
	19,642,700	699,672,974
<b>財務活動による現金及び現金同等物の増加（純額）</b>		
現金及び現金同等物の純増額	6,846,314	243,865,705
現金及び現金同等物の期首残高	12,687,406	451,925,402
	<b>19,533,720</b>	<b>695,791,106</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>		
<b>情報の補足開示：</b>		
受取利息	2,955,878	105,288,374

添付の注記と明細表は本財務諸表の不可分の一部である。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務状況の指標  
2016年3月19日に終了する計算期間

	2016年	
	トルコリラ	日本円
<b>受益証券1口当たり運用成績：</b>		
期首における受益証券1口当たりNAV	0.01	0.36
投資活動による収益（B）		
純投資収益	-	-
純実現利益及び未実現利益の純変動額	-	-
投資活動による収益合計	-	-
期末における受益証券1口当たりNAV	0.01	0.36
<b>比率／補足データ：</b>		
平均純資産総額に対する費用比率（A）	(2.26)%	
平均純資産総額に対する純投資収益比率（A）	8.09%	
総収益（A）	0.01%	

（A）総収益は、当期中のNAVの変動に基づいて計算される。費用比率および純投資収益比率は当期中の平均純資産残高に基づいて計算される。財務状況の指標は、全ての投資関連費用および運用費用を反映したものである。

（B）特定の投資、手数料の取決めおよび資本取引のタイミングにより結果は異なる。受益証券1口当たりの情報については、当期中の月平均受益証券口数残高に基づいて計算される。

## トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

### 財務諸表に対する注記

2016年3月19日

#### 1. トラストに関する説明

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド（以下「当シリーズ・トラスト」という。）は、マルチストラテジー・ファンド（以下「当トラスト」という。）のシリーズ・トラストである。当トラストは、受託会社と管理会社との間で締結された2013年6月10日付基本信託証書に基づき設定されたオープン・エンドのアンブレラ型ユニット・トラストである。当トラストは2013年6月18日に、ケイマン諸島の信託法に準拠しアンブレラ型ユニット・トラストとして設定され、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法に基づき登録された。関連する資産や負債が帰属する個別のポートフォリオやシリーズ・トラストを組成および設定することができる。基本信託証書はケイマン諸島法に準拠している。

当シリーズ・トラストの投資目的は、国債、社債、譲渡性預金証書、資産担保証券、銀行預金ならびにレポ取引及びリバースレポ取引（ただし、これらに限定されない）のトルコリラ建て短期金融商品への投資を通じて、収益を提供しつつ、元本価値を確保し、高水準の流動性を維持することである。

インターナショナル・マネジメント・サービスズ・リミテッド（以下「管理会社」という。）は管理会社である。損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社（以下「投資運用会社」という。）は投資運用会社である。アク・ポルトフェイ・イエネティミ・アノニム・シルケティ（以下「副投資運用会社」という。）は副投資運用会社である。スミトモ・ミツイ・トラスト（ユークー）リミテッド（以下「保管会社」という。）は保管会社である。当シリーズ・トラストの管理事務業務は、エスエムティー・ファンド・サービスズ（アイルランド）リミテッド（以下「管理事務代行会社」という。）に委託されている。

#### 2. 重要な会計方針

本財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計基準（以下「米国GAAP」という。）に準拠して作成されている。米国GAAPに準拠した財務諸表の作成において、受託会社は、財務諸表で報告される金額および開示に影響を与える見積もりや仮定をする必要がある。実際の結果は、それらの見積もりとは異なる場合がある。

本財務諸表は、当シリーズ・トラストの機能通貨であるトルコリラ（以下「TRY」という。）建てで作成されている。

当シリーズ・トラストは米国GAAPの下で投資会社と見なされており、財務会計基準審議会（以下「FASB」という。）の会計基準コーディフィケーション（以下「ASC」という。）946「金融サービス-投資会社（以下「ASC946」という。）」において投資会社に適用できる会計ガイダンス及び報告ガイダンスに従っている。当シリーズ・トラストが採用した重要な会計方針は以下の通り。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

2. 重要な会計方針の要約 (続き)

**投資の評価**

投資は社債、国債およびレポ取引から成る。償還までの残余期間が1年未満の社債および国債といった債券は、公正価値のもっとも妥当な見積もりとして、償却原価法（例えば、取得価額が額面より高い場合におけるプレミアム分のアモチゼーション、または取得価額が額面より低い場合におけるディスカウント分のアキュムレーションにより取得価額を調整する。）を用いて、公正価値で評価される。管理会社は、投資がそれらの公正市場価格で計上されることを担保するために、同社の代理人を通じて償却原価法を継続的にレビューする。当シリーズ・トラストが金融資産を購入すると同時に将来の期日に一定の価格で同資産を売却す契約を締結する（「レポ取引」）場合、その契約は債権（「レポ取引による債権」）勘定に計上され、原資産は当シリーズ・トラストの財務諸表上において認識されない。

当シリーズ・トラストが金融資産を売却すると同時に将来の期日に一定の価格で同資産を買戻す契約を締結する場合、その契約は借入金（「レポ取引による債務」）勘定に計上され、原資産は当シリーズ・トラストの財務諸表上において消滅を認識されない。レポ取引による債権および債務は当初、増分直接取引費用控除後の公正価値で測定され、その後は、実効金利法を用いて償却原価で測定される。

**現金及び現金同等物**

現金及び現金同等物には、購入日から90日以内に容易に一定の金額に換金可能であるマネー・マーケット・ファンドなど流動性の高い投資が含まれる。全ての現金残高は、主要な銀行及び証券会社で保管されている。

投資取引は取引日基準で計上される。計算期間末については、2016年3月19日が営業日ではないため、当シリーズ・トラストの目論見書に従い、全ての投資は2016年3月18日現在で評価されている。

実現損益、および未実現損益の変動額は、先入先出法によって決定され、損益計算書に計上される。公正価値の変動額は評価日ごとに損益に計上される。

現金およびその他の流動性の高い資産については、適切な場合には、該当日末までの未収利息を加えた額面価額で評価される。

**投資収益**

受取利息は実効金利法によって計算される。有価証券の取得価額が額面より低い場合におけるディスカウント額、および取得価額が額面より高い場合におけるプレミアム額については、それぞれの有価証券の償還までの期間にわたり実効金利法によりアモチゼーションまたはアキュムレーション処理が行われる。

**費用**

費用は発生主義で計上される。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

2. 重要な会計方針の要約 (続き)

外国為替換算

外貨建の資産および負債は、2016年3月19日が営業日ではないため、2016年3月18日の最終為替相場場で換算され、為替差損益は損益計算書に反映される。有価証券の売買や収益および費用は、それらの各取引日の実勢為替レートで換算される。未実現損益は、投資有価証券の公正価値と取得原価との差額である。

当シリーズ・トラストでは、有価証券について市場価格の変動による損益部分と外国為替レートの変動によって発生する損益部分を分離していない。かかる変動については、損益計算書において投資及び外国為替に係る実現純損失に含まれている。

税制

当シリーズ・トラストはケイマン諸島の免税信託である。ケイマン諸島の現行法の下では、収益、不動産、譲渡、売却、あるいはその他に対して当シリーズ・トラストが支払うべき税金は存在しない。当シリーズ・トラストの自己勘定のために売買する株式および有価証券に係わる収益については、一般的に米国の課税対象にならない(ただし、以下に示された特定の源泉徴収税を除く。)。投資運用会社は、当シリーズ・トラストの活動が米国での取引や事業に該当しないように、実行可能な最大限の範囲において当シリーズ・トラストの運用を行う方針である。米国以外のソースから当シリーズ・トラストが実現した利息やその他の収益、および米国以外の発行体の有価証券売却で実現したキャピタルゲインは、収益の源泉となった税管轄地において源泉徴収税やその他の税金が課せられる可能性がある。信託法(2011年改正)に従って、当トラストは、トラストの設定から50年の期間にわたり全ての現地での課税について免税措置を受けている。

当シリーズ・トラストの財務諸表に計上する法人所得税の未確定事項の会計処理は、会計基準コーディフィケーション(以下「ASC」という。)740号の「法人所得税における未確定事項に係る会計処理」によって明らかにされている。ASC740号は、納税申告書に記載されるか、または記載されると予想されるタックス・ポジションの財務諸表上の認識および測定のために、認識の基準や測定の指針を規定する。ASC740号は、タックス・ポジションについて、税務調査で容認される可能性が50%超の可能性であるか否かを会計主体が判断することを求めている。それには、同タックス・ポジションのテクニカル・メリットに基づき、関連するあらゆる申立てまたは訴訟プロセスの解決も含まれる。企業は、タックス・ポジションが50%超の可能性の判断基準を満たしていたか否かを評価する際に、全ての関連情報を十分に有している適切な税務当局により同タックス・ポジションが調査されることを前提とする必要がある。50%超の可能性の判断基準を満たしているタックス・ポジションは、タックス・ベネフィットの額を判断するために測定され、財務諸表上で認識される。このタックス・ポジションの測定は、50%超の確率で確定する金額のうち最大値をもってなされる。

投資運用会社は当シリーズ・トラストのタックス・ポジションを分析し、未確定のタックス・ポジションに関して、未認識のタックス・ベネフィットに対して計上されるべき負債はないと判断した。さらに、投資運用会社は、未認識のタックス・ベネフィットの総額が今後12ヶ月間に、大幅に変動する合理的な可能性のあるタックス・ポジションが存在するとは認識していない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記  
2016年3月19日  
(続き)

## 2. 重要な会計方針の要約 (続き)

### 保証および/または補償

通常の事業活動の中で、当シリーズ・トラストは、一般的な補償を提供する様々な条項を含む契約を締結する。これによって、現在はまだ発生していないが、将来、当シリーズ・トラストに対して何らかの請求が起こされる可能性があり、これらの契約に伴う当シリーズ・トラストの最大エクスポージャーは不明である。ただし、経験に基づくと、当シリーズ・トラストは損失を被るリスクはごく僅かであると予想する。

### 分配金

管理会社は各取引日に代理人を通じて分配金を公表する。受益証券1口当たりの分配金額は、各取引日における当該受益証券1口当たりの純資産価額を0.01トルコリラに維持するために必要な金額の合計に等しい。

### 買戻しの分類

A S C 480号の「負債と資本の双方の特性を有する特定の金融商品の会計処理」の規定では、買戻し通知で要求される金額が確定した時点で、買戻しを負債として認識する。この認識日は通常、買戻し要求の性質によって、買戻し通知の受領時または計算期間の末日のいずれかになる。したがって、計算期間末後に支払われるが、計算期間末の資本残高に基づく買戻しは、2016年3月19日時点でファンドの買戻し受益証券に対する未払解約金として反映される。

## 3. 公正価値の測定

金融商品は公正価値で計上される。公正価値は、測定日時点における市場参加者間の秩序ある取引において資産の売却によって受け取られる、または負債の移転（エグジット価格）のために支払われる価格として定義される。

インプットの公正価値ヒエラルキーは、入手可能な場合には観測可能なインプットのほとんどが使用されることを要求することにより、観測可能なインプットの使用を最大化し、観測不能なインプットの使用を最小化するような公正価値を測定する上で使用される。観測可能なインプットとは、当シリーズ・トラストとは無関係の情報源から得られる市場データに基づき、市場参加者が資産または負債を値付けする際に使用するインプットである。観測不能なインプットは、市場参加者が資産または負債を値付けする際に使用するであろうインプットに対する当シリーズ・トラストの仮定を反映したものであり、この仮定は入手可能な最良の情報に基づいている。

公正価値ヒエラルキーは、インプットに基づき以下の3つの水準に分類される。

- レベル1 - 当シリーズ・トラストが測定日にアクセス可能な、同一の資産または負債の活発な市場における調整なしの相場価格を反映するインプット；
- レベル2 - 活発とは見なされない市場におけるインプットなど、資産または負債に関して直接的または間接的に観測可能な相場価格以外のインプット；
- レベル3 - 観測不能なインプット。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

3. 公正価値の測定 (続き)

インプットは様々な評価手法適用に際して利用されるものであり、リスクに関する仮定を含め、評価を決定するにあたり市場参加者が用いる仮定を広く示している。金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベルは、公正価値測定に対して重要であるインプットのうち最も低いレベルのインプットに基づいて決定される。受託会社は観測可能なデータを、容易に利用可能であり、定期的に配布または更新され、信頼でき検証可能であり、独占されていない、かつ活発な関連市場に積極的に関与している独立した情報源によって提供される市場データであると見なす。ヒエラルキー内の金融商品の分類は、金融商品の価格設定における透明性に基づいており、受託会社が認識している金融商品のリスクと必ずしも一致しない。

その価値が活発な市場における相場価格に基づいている投資は、レベル1に分類される。2016年3月19日現在、シリーズ・トラストはレベル1に分類される投資を保有していなかった。

活発とは見なされない市場で取引されているが、相場価格、ディーラーの気配値、あるいは観測可能なインプットにより支持されるそれに代わるプライシング・ソースなどに基づき評価される投資は、レベル2に分類される。レベル2の投資には、活発な市場で取引されず、および（または）譲渡制限を受けるポジションが含まれるため、非流動性および（または）非譲渡性を反映するために調整されることもある。非流動性や非譲渡性については通常、利用可能な市場情報に基づいている。負債証券は償却原価法を用いて評価されており、レベル2に分類される。

レベル3に分類される投資は、取引が稀であるか、または全く取引がないため、著しく観測不能なインプットしか有していない。2016年3月19日現在、シリーズ・トラストはレベル3に分類される投資を保有していなかった。

以下の表は、公正価値で測定される当シリーズ・トラストの投資について、2016年3月19日現在の公正価値ヒエラルキー内のレベルごとの評価を示す：

	レベル1 トルコリラ	レベル2 トルコリラ	レベル3 トルコリラ	合計 トルコリラ
<b>資産</b>				
負債証券	-	59,108,396	-	59,108,396
	<u>-</u>	<u>59,108,396</u>	<u>-</u>	<u>59,108,396</u>

全ての有価証券がレベル2に分類されている。当計算期間において、レベル間の資産の大きな移動はなかった。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記  
2016年3月19日  
(続き)

#### 4. 金融商品および関連リスク

以下に当シリーズ・トラストの金融商品から生じる主なリスクの概要を示す。

##### 市場リスク

2016年3月19日現在の貸借対照表には、負債証券から生じる契約上のコミットメントの公正価値が含まれている。これらの投資には、貸借対照表に反映されている総額を超える市場リスクの要素が含まれている。

当シリーズ・トラストの金融商品の評価額は、金利または為替変動以外の要因による市場価格の変動に伴い変動する。当シリーズ・トラストの金融商品は、その他の価格リスクに直接さらされていない。

##### 金利リスク

金利の上昇により、一般的に当シリーズ・トラストの将来収益の現在価値が低下する。有価証券の市場価格は、将来収益に対する投資家全体の見通しに基づいて絶えず変動するので、投資家が金利上昇を予想するか、または経験した時に、有価証券の価格は通常下落する。

##### 流動性リスク

流動性リスクは、高ボラティリティや金融ストレスが存在する時期に、当シリーズ・トラストがその投資ポジションの規模を妥当な価格で迅速に調整することができない可能性を示す。

当シリーズ・トラストの主な負債は、投資家が売却したいと考える可能性のある受益証券の買戻しである。当シリーズ・トラストは、買戻し可能参加受益証券の現金による日々の買戻しリスクにさらされている。

当シリーズ・トラストの流動性は、組入れ有価証の流動性に左右される。当シリーズ・トラストの資産は、主に容易に換金可能な有価証券で構成されている。受託会社の見解によると、このことにより、当シリーズ・トラストの負債の支払いや、全ての受益者の買戻し可能参加受益証券の買戻しが可能になる。

投資運用会社の見解によると、2016年3月19日時点で保有されている当シリーズ・トラストの資産の大部分は、通常の状況で1か月以内に現金化が可能である。

##### 為替リスク

当シリーズ・トラストの有価証券と現金及び現金同等物の全ては、当シリーズ・トラストの基準通貨建てであるため、貸借対照表および損益計算書は為替変動による影響を受けない。したがって、感応度分析は実施されていない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

4. 金融商品および関連リスク (続き)

信用リスク

信用リスクは、カウンターパーティが当シリーズ・トラストに対する債務を条件にしたがって履行できなくなった場合、当シリーズ・トラストが計上する可能性のある損失により測定される。当シリーズ・トラストは、取引の関係者の信用リスクにさらされるとともに、決済不履行のリスクも負う。特に当シリーズ・トラストは、BBHアンド・カンパニー（以下「副保管会社」という。）（フィッチによる信用格付けはA+）やアクバンク・マルタ支店（注記6）（フィッチによる信用格付けはAA+）に係る信用リスクにさらされている。

当シリーズ・トラストは負債証券に投資している。発行体の財政状態の悪化、または経済情勢の悪化、あるいはその両方、または予想外の金利の上昇などにより、発行体の元利金の支払能力が低下する可能性がある。発行体が期日に元利金支払ができなくなった場合、当シリーズ・トラストの口座で保有されている有価証券の価値に悪影響が及ぶ場合がある。流動性のある取引市場がない有価証券については、公正価値を当シリーズ・トラストの評価手法に従って確定することができなくなる可能性がある。さらに、新興国市場への投資に伴う信用リスクは、概して先進国への投資に比べ大きくなる傾向がある。

2016年3月19日現在、当シリーズ・トラストは以下の信用格付けを有する負債証券に投資している。

信用格付け

	トルコリラ	%
AAA*	59,108,396	100.00
<b>合計</b>	<b>59,108,396</b>	<b>100.00</b>

\* 国の長期格付け

レポ取引およびリバースレポ取引には、そのようなレポ取引またはリバースレポ取引の担保の評価の違いに関連したリスクが含まれる場合がある。そのような取引において受け取りまたは差し入れられた担保の価格が、当シリーズ・トラストに悪影響を及ぼす場合がある。関係するカウンターパーティが不履行に陥った場合、不正確な価格設定や、担保が取引される関連市場の非流動性および市場動向により、当シリーズ・トラストの投資パフォーマンスに大きな悪影響が及ぶ可能性がある。これらの影響の結果には（これらに限定されないが）、純資産額の急激な減少、現金回収の遅延、担保の現金化に伴う困難、さらにこれらの結果に関連する追加のリスクが含まれる。

受託会社であるG. A. S. (ケイマン)リミテッドは、スミトモ・ミツイ・トラスト (ユークー) リミテッドを保管会社（以下「保管会社」という。）に指名した。保管会社（フィッチによる信用格付けはA-）は次に、副保管会社を指名した。現金および有価証券は、最終的に副保管会社にて保管され、現金は銀行である副保管会社に預けられている。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

4. 金融商品および関連リスク (続き)

信用リスク (続き)

当シリーズ・トラストの有価証券は、分別された口座において副保管会社が保管する。したがって、副保管会社が支払不能あるいは破綻に陥った場合においても、当シリーズ・トラストの資産は分別されている。ただし、当シリーズ・トラストは、副保管会社の信用リスク、あるいは当シリーズ・トラストの現金に関して保管会社または副保管会社が利用する預託機関の信用リスクにさらされる。副保管会社が支払い不能または破綻に陥った場合、当シリーズ・トラストは当シリーズ・トラストの現金保有高に関して副保管会社の一般債権者として扱われることになる。

当シリーズ・トラストが取引を行ってきた適格有価証券の全ての格付けを掲載する投資ユニバースはメンテナンスされており、フィッチによる格付け変更を記録するために毎日監視される。格付けの変更は、すべて運用会社に報告される。

副保管会社は、フィッチからA+の信用格付けを付与されている。副保管会社が破たんした場合、または支払不能に陥った場合、同社が保管している当シリーズ・トラストの負債証券に対して権利行使する際に遅延または制限が生じる可能性がある。

5. 元本

当シリーズ・トラストは受益証券を発行及び買戻すことができるため、当シリーズ・トラストの元本は、当シリーズ・トラストへの購入及び買戻し請求によって変動する可能性がある。受益者一人当たりの最低購入又は買戻し額は1口であり、以降1口単位で計算される。

受益証券は、前評価日における営業終了時点の受益証券1口当たりNAVで各営業日に買戻し可能である。ただし、関連営業日の午前8時（ダブリンの時間）または運用会社が決定した期限までに買戻し通知を提出することを条件とする。期限までに買戻し通知が提出されなかった場合には、買戻し請求は次の取引日まで持ち越され、その取引日に適用される買戻し価格で買戻されることになる。

2016年3月19日を期末とする計算期間中における受益証券の口数の異動は以下の通り：

	口数
期首における受益証券の口数残高	5,348,910,744
受益証券の発行口数	9,413,703,964
受益証券の買戻し口数	(6,892,288,269)
	<hr/>
期末における受益証券の口数残高	7,870,326,439

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記  
2016年3月19日  
(続き)

6. 現金および現金同等物

現金および現金同等物は2016年3月19日現在、以下の通り副保管会社で保管されている手許現金、及びアクバンク・マルタ支店で保管されている満期が3ヶ月以下の定期預金により構成されている：

	トルコリラ
手許現金 - BBHアンド・カンパニー	333,720
定期預金 - アクバンク・マルタ支店	19,200,000
	<hr/>
合計	<b>19,533,720</b>

7. 関連当事者取引

一方の当事者が、他方の当事者を支配可能であるか、または、他の当事者の財務上および業務上の意思決定に対して重要な影響力を行使可能である場合、それらの当事者は関連していると見なされる。通常の事業取引以外に、関連当事者との取引は発生していない。管理会社、投資運用会社、副投資運用会社、受託会社、及びアクバンク T. A. S (預金のカウンターパーティであり、かつ当シリーズ・トラストにおいて290,000,000口の受益証券を保有している)は、当シリーズ・トラストの関連当事者と見なされる。当シリーズ・トラストはアクバンク・マルタ支店(注記6)に19,200,000トルコリラの預金を保有している。当計算期間に関連当事者に支払った報酬は、損益計算書に計上されている。当計算期間末に関連当事者に支払うべき未払金は貸借対照表に計上されている。

8. 報酬および費用

管理会社は、純資産総額に対して年率0.025%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月米ドルにて後払いで支払われる。ただし、年間の管理報酬の下限を40,000トルコリラに定める。

受託会社は、純資産総額に対して年率0.04%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月ユーロにて後払いで支払われる。ただし、年間の受託報酬の下限を43,000トルコリラに定める。

投資運用会社は、純資産総額に対して年率0.30%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。

副投資運用会社は、純資産総額に対して年率0.55%の報酬を受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月トルコリラにて後払いで支払われる。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記  
2016年3月19日  
(続き)

8. 報酬および費用 (続き)

管理事務代行会社は、純資産総額に対して年率0.08%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月ユーロにて後払いで支払われる。ただし、毎月の管理事務代行報酬の下限を8,900トルコリラに定める。また、管理事務代行会社には、8,900トルコリラに相当するユーロでの監査補助報酬も支払われる。さらに、管理事務代行会社には、各新規受益者1人につき270トルコリラの手数料と、引受時に必要な登録の更新毎に45トルコリラの手数料も支払われる。また、管理事務代行会社は、その義務の履行において必要となる全ての妥当な立替支出に関して払い戻しを受ける。

保管会社は、純資産総額に対して年率0.12%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月米ドルにて後払いで支払われる。ただし、毎月の保管報酬の下限を2,100トルコリラ相当額のUSドルに定める。また、保管会社は、その義務の履行において必要となる全ての妥当な立替支出に関して払い戻しを受ける。

販売会社は、純資産総額に対して年率0.35%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。

代行協会員は、純資産総額に対して年率0.10%の報酬を当シリーズ・トラストの資産から受け取る。この報酬は、評価日ごとに計算の上、未払計上され、毎月日本円にて後払いで支払われる。

2016年3月19日時点における未払報酬は以下の通り：

	トルコリラ
投資運用報酬	14,257
副投資運用報酬	26,137
管理報酬	2,295
管理事務代行報酬	14,544
保管報酬	40,473
受託報酬	2,467
販売報酬及び代行協会員報酬	19,920
監査報酬	65,598
その他の費用	28,622
	<hr/>
	<b>214,313</b>

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
財務諸表に対する注記

2016年3月19日

(続き)

9. レポ取引による債権

取引は、担保付金融取引として取り扱われ、取り決められた売戻金額で計上される。取引に係る利息は、未収利息に含まれる。

レポ取引とは、当シリーズ・トラストが合意した価格、期日および利息で将来有価証券を売戻すことを取り決めた契約に基づき有価証券を購入することである。レポ取引のカウンターパーティはデフォルトする可能性があり、レポ取引にはこうした信用リスクが伴う。2016年3月19日現在、当シリーズ・トラストはレポ取引を行っていない。

当シリーズ・トラストは、契約に基づく金額に対する担保の市場評価額を、経過利息も含め、契約期間の開始から終了までモニタリングしている。また、必要な場合には、エクスポージャーや流動性を管理するために、現金または有価証券の入れ替えを要求する。このような契約に関連して、カウンターパーティが債務不履行や破産手続き開始の状況に陥った場合は、当シリーズ・トラストに対する担保の換金または回収が遅延あるいは制限される場合がある。

10. 資産と負債の相殺

当シリーズ・トラストは、財務諸表の利用者が、認識された資産および負債について財政状態へのネットティング契約の影響または潜在的影響を評価できるように、貸借対照表において表示される資産と負債の相殺による影響を開示する必要がある。

これらの認識された資産および負債は、強制力のあるマスター・ネットティング契約または類似の契約の対象となっているか、あるいは相殺権に関する次の基準を満たしている金融商品及びデリバティブ商品である。その基準とは、1) 別の当事者に対して当シリーズ・トラストが支払うべき金額が確定できること、2) その他の当事者が支払うべき金額により、当シリーズ・トラストが支払うべき金額を相殺する権利を有していること、3) 当シリーズ・トラストが相殺する意図を有していること、4) 当シリーズ・トラストが法的強制力のある相殺権を有していること。

2016年3月19日現在、貸借対照表において相殺された資産および負債はない。

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド  
 財務諸表に対する注記  
 2016年3月19日  
 (続き)

11. 取引純資産総額から財務諸表上の純資産総額への調整

	2016年 トルコリラ
公表純資産総額	78,790,006
取引日調整	(86,740)
費用計上済みの設立費用	(543,418)
公表純資産総額において償却した設立費用	240,648
<b>財務諸表上の受益証券の保有者に帰属する純資産総額</b>	<b>78,400,496</b>
公表純資産総額に基づく受益証券口数	7,879,000,414
取引日調整	(8,673,975)
<b>財務諸表上の受益証券口数</b>	<b>7,870,326,439</b>
受益証券1口当たり公表純資産価額	0.01
財務諸表上の受益証券1口当たり純資産価額	0.01

543,418トルコリラと見積もられた設立費用は、費用が発生した計算期間の損益計算書において全額計上した。取引の目的で使用する受益証券1口当たりの公表純資産価額を計算する目的上、当シリーズ・トラストの設定に係わるこれらの設立費用は、当シリーズ・トラストの最初の7事業年度を通じて償却されるか、あるいは受託会社が募集目論見書に従って、その絶対的裁量権で公正と見なす方法で決定する期間内に償却される。

受益者の取引目的では、取引は取引日プラス1営業日をベースとして会計処理される。財務報告目的では、取引は取引日をベースとして会計処理される。最終取引日における営業終了時点と財務報告期間末日の間に発生した取引に関して、86,740トルコリラの調整が必要であった。

12. 後発事象

受託会社は2016年3月19日から財務諸表の発行が可能となった2016年9月7日までの期間に対する後発事象のレビューを行なった。2016年9月7日までに、投資家から当シリーズ・トラストに35,531,411トルコリラの購入申込みがあった一方、当シリーズ・トラストから14,218,431トルコリラの買戻しが行われた。

受託会社は、これらの財務諸表において追加開示が必要なその他の後発事象はないとの結論を下した。

(3) 投資有価証券明細表等

トルコリラ・マネー・マーケット・ファンド

有価証券明細表  
2016年3月19日現在

債券	取得原価 トルコリラ	公正価値 トルコリラ	純資産に 対する割合
<b>トルコ</b>			
TC Ziraat Bank 0% 08-Jun-16	7,297,650	7,328,443	9.35
Turk Ekonomi Bankasi AS 10-Aug-16	7,118,410	7,183,568	9.16
Turkey Government 8.2% 13-Jul-16	7,535,400	7,551,975	9.63
Turkey Government 8.2% 16-Nov-16	7,871,280	7,884,346	10.06
Turkiye Bankasi As 0% 26-Aug-16	7,144,275	7,157,369	9.13
Turkiye Garanti Bank 0% 16-May-16	7,299,580	7,378,938	9.41
Turkiye Vakiflari Bank 0% 29-Apr-16	7,158,000	7,420,270	9.46
Yapi Ve Kred Bank 0% 06-May-16	7,085,526	7,203,487	9.19
	<hr/>	<hr/>	<hr/>
<b>公正価値により測定される負債証券への投資</b>	<b>58,510,121</b>	<b>59,108,396</b>	<b>75.39</b>
	<hr/>	<hr/>	<hr/>
<b>定期預金（3ヶ月未満）</b>			
<b>マルタ</b>			
FDTRY AKbank Malta 11.25% 30-Mar-16	14,200,000	14,200,000	18.11
FDTRY AKbank Malta 11.50% 18-Apr-16	5,000,000	5,000,000	6.38
	<hr/>	<hr/>	<hr/>
<b>定期預金（3ヶ月未満）合計</b>	<b>19,200,000</b>	<b>19,200,000</b>	<b>24.49</b>
	<hr/>	<hr/>	<hr/>

■お知らせ

該当事項はありません。